慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Les origines diplomatiques de la guerre de 1870-1871.
Sub Title	
Author	林, 毅陸
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.5 (1910. 11) ,p.603(103)- 605(105)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101100-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の書は全叢書の序論として見る可く、その表題によりて想像し得るところよりも內容遙かに豐富なり。蓋し、敢て思潮史のみに限れるにあらず、政治社會に於て表現して之を指導せる思想觀念を捉らへ、思潮史と政治史との關係を描寫し出せり。マイヤーの書は炯爛たる才筆を以て、廣義の詩人は勿論科學的作家をも論評せり　歷史の克復の章に於てはランケより政治史家を經て文明史家フライタハ、リール並に小說家コンラード、フエルヂナンド、マイヤースに至る發展の徑路を指摘せり。到る處に著者はその獨創の意見を述べ、豐富なる材料を能く咀嚼せり。カウフマンがマイヤーの如く汗牛充棟の資料を簡明に摘錄し得たるは、蓋し、個人的見解を之に關連して告白し敢て完全なる敍述を期せざりしが爲なり。而もこれ本書に特別の意義を與ふる所以なり。トライチケと同じく、カウフマンは先づ第一に獨逸の政治上の發展の上に於ける民族的要素に重きを置きしが、自由主義者に對してはトライチケよりも遙に多大の同情を注けり、蓋しトライチケはその晩年に及びては全く自由主義者と相背馳するに至れり』と評せり。その他ラヴイス、ラムバウの全史ケムブリッヂ近世史等英佛の選述に就ても簡單の紹介あり。

第二編遺物の說明に於ては廣義の意味に於てせずして專ら文書、並に狹義の書類に就てのみ敍述せり。茲に文書とは詔勅。判決法令、條約、辭令、寄進狀、遺言狀、領收證等にして、狹義の書類とは信書、議事錄、意見書、法律草案等を指せり、これ卽ち根本史料にして、史家研究の領域は專らこの方面に存せりと云ふも、不可なし。故に本編は之を二章に分ち第一章に於ては文書並に狹義の書類の種類に就て詳細なる說明を加へ、例へば國際條約に就てはその公刊の方法、條約並に國際法の參考書、條約の性質、史學上より條約を觀察す可き見地、等に分ちて之を論評し、法令に關しては舊獨逸帝國の法律、獨逸各國の法律並に參考書史料としての法律、一八〇〇年以前各國の立法、新立法等の諸項に分て之を敍述せり。第二章は、

文書の來歷と題し先づ草案、原本、謄本、等の別を說き、次に記錄制度に就て、詳說せり。各國記錄局卽ち文書館の現狀記錄研究者の心得、記錄出版の機關等は卽ち本書の結末を爲せり。思ふに本書によりて益を得るは獨り史學家のみ止まらざる可し。

新著紹介

Les Origines diplomatiques de la Guerre de 1870—1871,

(Recueil de documents Publié Par le Ministère des Affaires Etrangères. Tome Premier, 25 décembre 1863—21 février 1864). Paris, 1910

佛國政府は一八七〇—七一年の佛普戰爭の由來を明にするため外務省祕藏の外交文書を發表するに決し、去る一九〇七年の三月外務省內に此等文書の調査編纂掛を設け、記錄課長全權公使ドルンモントーを委員長に、オーラール及ブルジョア二教授並に代議士ライナックを委員とし、熱心に取調中なりしが、滿三年餘を經て漸く其第一卷を出版するに至りたるもの卽ち本書なり。されば本書が外交史研究上の無上の珍寶たるは敢て多言する迄もなし。予の如きも今迄當時の外交を研究するに當り、佛國外交文書の公けにせられたる者乏しき

ため、主として關係外交家の備忘錄又は英國外交書の類に依賴するの外なかりしが、今や佛國政府は其祕庫を開きて一切の消息を明にせんとす。實に是れ學界の大福音なり。而して此文書發表を爲すに當り、一八六三年十二月二十五日を以て始と爲したるは、最も宜しきを得たり。蓋シユレスウイグ、ホルスタイン事件と普墺戰爭と普佛戰爭と此等三事件は密接に相關聯し、セダンの遠因は實に二州事件に於ける普魯西外交の勝利に在り。而して此二州事件は正に一八六三年十二月二十五日の前後に於て危機の破裂を來せしなり。拙者歐洲近世外交史下卷三百二頁及二百三頁に左の記事あり。

十二月七日(一八六三年)墺普の說に基て愈干涉實行を爲すに決し、之を委任されたる四國は同十五日此決議を丁抹に通知してホルスタイン及ラウエンブルグの撤兵を求め、二十四日サグセン及ハンノヴエルの兵は難なく之を占領せり。同時にアウグステンブルグ公はキールに赴きて國民政府を組織し聯邦官吏は唯之を監督するに止めたり。丁抹は憤慨に堪へずと雖も抵抗の力なく唯抗議書を發して獨逸人の橫暴を天下に訴ふるのみ。

今や普魯西の大活動の機會は漸く來りたり。曩にアウグステンブルグ老公をして要求を放棄せしむるに盡力したるビスマルク其人は却て丁抹新王の權利を無視して其領土の分割を企てんとす。非道殘酷と騙詐譎詐とに滿てる大悲劇は之より將に演出せられんとす。然れどもビスマルクの前には多大の困難橫はり其進路は幾多の曲折を經るを要したり。從て其變化展開の跡は之を究むるに甚だ困難なり。然も是れ外交史上最も重要にして且最も興味に富む部分なるが故に吾人は忍んで之が研究を試みざる可らず。

而して本書は前記十二月二十四日ホルスタイン占領の翌日より始まれるなり。外交界漸く紛糾を極めんとする其時より始まれるなり。吾人豈渴に水を得たるの感なきを得んや。實際に於て本書收むる所の長短二百三十五篇の公文及電報類は皆至貴の資料にして、各篇讀み來れば當時の消息歷々掌を指すが如きものなきに非ず。僅に十二月二十五日より翌年二月二十一日に至る六十八日分にて既に三百八十頁の一書冊を爲せるを見るも、亦以て細大網羅されあるの狀を推想するを得べし。想ふに今後發表の進捗するに從ふて益々大光明を當時

の外交史に與ふるならん。本書編纂委員は此第一卷發表を外相ピションに報告するに當り、書末に附記して曰く、佛國外務省が祕庫を開きたるの實例は恐らく他國政府をして其祕庫を開き眞理に就て毫も恐怖する所なきを示すに至らしむるを得んと與特に獨の政府にして果して當時の外交文書を發表せんには、愈玆に完全なる闡明を得る次第なるも、此は今暫く望なかるべきか。(林毅陸)

大西猪之介著

帝國主義論 (寶文館發行)

本書は津村教授編纂國民經濟叢書の第一冊として發行せられたる者なり。帝國主義は近時世界列國に於ける大思潮にして、其の政治外交に大關係あるは勿論なるも、根本の性質は主として經濟的なり。今日の帝國主義は往時の武的帝國主義とは固より大に異なる。されば之に關する研究が國民經濟叢書の第一冊として現れたるは全然至當にして又著者大西君が主として經濟的方面より論述せるは洵に宜しきを得たり。而して其內容は先づ帝國主義發生の原因より筆を起し、以下佛英露獨諸國の帝國主義を論じ、就中、英國の部に於て最も詳細なり。全篇五百四十二頁中英國の部が二百八十八頁を占むるを見るも、著者が如何に此に重きを置きしやを知るに足らん。英國には目下チエムバレン一派の新帝國主義盛んに唱道されつゝある折柄なれば、著者が之に特別の注意を拂ひしも無理なりとせず。但し獨逸の帝國主義は當今最も注目すべき者にして、英の帝國主義論の如きも實は其の對抗策として起れるに外ならざるが故に、今少し獨逸の部に力を注ぎたらんには、一層完璧たるを得んか。又著者論評の態度が時として第三者的地位より脫出し、自身に或政策を主張辯護するやの風を帶ぶることあるは、予窃に之を惜まざるを得ず。然れども著者が多くの書籍及雜誌類を涉獵し忠實なる研究に苦心を重ねたるの跡歷々たるは甚だ多とすべく、又此書が列强帝國主義の現況に就き有益なる知識を與ふるに於て大なる價値を有するは、予の敢て明言し得る所なり。定價一圓五